

6 飯リ推第 103 号
令和6年11月28日

リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会
代表世話人 熊谷 清人 様 大坪 勇 様 北林 強 様

飯田市長 佐藤 健
(リニア推進部)

「飯田市のリニア工事に対する姿勢を改めて問います」について (回答)

令和6年11月6日付けで受領致しました「飯田市のリニア工事に対する姿勢を改めて問います」に対しまして、下記のとおり回答致します。

記

【意見】

- 飯田市として今までのJR東海への盲従の姿勢を改め、今回の工事のもつ危険性に目を向け、地元自治体として、要対策土の持ち込みに反対の声を上げるべきです。
- 実際には市当局こそ住民の生活や健康・環境に対する影響を全く理解してこなかったことになるのではないでしょうか。

【回答】

- 土曾川橋りょうケーソン基礎への要対策土の活用については、JR東海の検討経過の際、京都大学の嘉門名誉教授を委員長とする検討委員会の中で議論され、検討委員会から「適切な設計・施工により構造物の健全性を確保するほか、万が一に備え、例えば遮水シートの貼り付けによる防水措置を考慮することで、重金属の滲出の問題はないと考えられる」などの意見をいただいた旨の説明をJR東海より受けており、この活用方法は従来の活用事例のような覆土や遮水シート等による活用方法より、技術的信頼性は高いと認識しています。
- 一方、この要対策土の活用方法については、9月27日と11月14日に開催された長野県環境影響評価技術委員会の審議において、様々な指摘を受けています。
- 今後、JR東海に対し、長野県から提出される助言の内容を真摯に受け止め誠実に対応するよう求めてまいります。